

#OUR815 MOVEMENT 開催

終戦記念日を「無戦争記録の更新日」にアップデートする音楽イベント

イベントの名前の由来

アワーハチイチゴ
#OUR815：8月15日の意味をこれまでの「終戦記念日」から「**無戦争記録の更新日**」にアップデートし、**若者達の新しい815を作る**という決意を込めました。

発起人「オニオン ONIORN」



名古屋のライブハウスを拠点に活動するソロアーティスト。エレクトロな楽曲と映像照明で“非日常”に誘うライブと、平和や人生観といったコンセプチュアルな楽曲で独自の表現を追求する27歳。ソロ活動2年目にして観客100人を動員するワンマンライブを成功させるなど、精力的に活動。劇場を会場としたイベントの開催は今回が初めて。ONIORN PROJECTは、今回のイベントを成功させる為に集まった有志メンバーです。

チケット価格

8月15日という日付を参加者の頭に刷り込むために、チケット価格は**815円**に設定しました。収益的には厳しい価格設定ですが、イベントの目的を考えればこれ以上最適な価格はないと考えています。不足する資金は**クラウドファンディング**などで調達を行います。



●8月15日に、音楽を通じて戦争と向き合う

この度私たちオニオン ONIORN PROJECT は、2019年8月15日（木）に名古屋市千種文化小劇場（ちくさ座）にて、「#OUR815 アワーハチイチゴ MOVEMENT」という音楽イベントを開催致します。令和に改元して最初の終戦記念日のこの日に、**次代を担う10代、20代の若者たちが、音楽を楽しみながら自然と戦争や平和について考えることができる**イベントを目指しています。

●戦争を意識させる舞台表現の数々

本イベントの最大の特徴は、「戦争について考えよう」というメッセージを前面に出さず、あくまで「楽しい音楽イベント」でありながら、演出や企画の随所に、戦争について考えるきっかけになる要素を盛り込むことです。例えば当日は**正午ごろに、玉音放送をサンプリングした楽曲を演奏したり、戦争に関連する歴史上の人物とONIORNが語り合う**ようなシーンがあります。これらは特定の政治思想への誘導ではなく、若い世代が戦争について考えるきっかけ作りの仕掛けです。若者の戦争・平和への無関心が問題視される中で、関心を持つことを強要することなく、様々な表現によって関心を引き出します。キーワードは「僕たちの815を作る」。目指すは終戦記念日を、今年も1年戦争なく過ごせたことを喜ぶ日に昇華することです。



#OUR815 MOVEMENT 開催

よくあるQ&A

今後の予定

4月：クラウドファンディング実施
5月：街頭公開録音企画
6月：新アルバムリリース
7月：イベント開催
8月：決起集会・本番

当日の予定

09:00 関係者会場入り
10:30 開場
11:30 第1部開演
12:00 幕間
12:14 第2部開演
14:30 終演
15:00 閉場
16:00 会場撤収

なお、開場のセッティングは前日に行うほか、イベント終了後はプロジェクトメンバーによる打ち上げを予定しています。

事前・事後の取材機会

7月後半には映像演出のテストを兼ねたイベントを、8月10日頃には関係者を集めた決起集会を行います。イベント当日も9時から10時までと16時以降はONIORN自身も取材に対応できます。会場内の撮影も報道関係者様向けに対応させていただきます。

お問い合わせ

広報：中島正博
090-2939-9362
our815@gmail.com
HP)https://our815movement.com

●どうやって戦争・平和への関心を促すの？

1) 玉音放送をリミックスした楽曲を演奏

ONIORNが昨年8月15日に発表したアルバム『Zanado la vinusante』に収録された『- Finalize -』という楽曲は、玉音放送（詳細次頁）をリミックスしています。「耐え難きを耐え、忍び難きを忍び…」の下りがよく知られていますが、その平和と希望の未来を願う内容はあまり知られていません。**昭和20年8月15日正午に放送された玉音放送を、新元号となった令和元年の8月15日正午に演奏すること**で、74年前に思いを馳せる時間を生み出します。

2) 戦争にまつわる歴史上の人物との対話演出

戦争当時の空気を観客に想像してもらうために**ライブの中でONIORNが歴史上の人物と対話するシーンを生み出します。**人物は『夜と霧』の著者 فرانクルを予定しており、戦争に突入することが止められなかった当時の経緯などを対話の内容に織り交ぜることで、戦争という状況が現代にも起きうることを暗に匂わせ、戦争へのリアリティを感じてもらいます。

●若者をイベントに呼ぶ仕掛けは？

1) アートとのコラボレーション



武蔵人骨氏

第1部では「公開絵師」として活動する武蔵人骨氏をコラボアーティストに迎え、**ONIORNとの共演でライブペイントを行います。**音楽とビジュアルアートを同時に楽しめるだけでなく、人骨氏の衝動的かつ禍々しい作品とパフォーマンスで、戦争の悲惨さをより際立たせてもらいます。

2) SNSを用いた観客参加型プロモーション

イベントフライヤーのデザインコンテストをSNS上で実施します。優れた作品をイベント当日に表彰させていただくなど、準備期間を通して多くの若者が当イベントに参加してもらえ、仕組みを作ります。

諸事情により未実施



#OUR815 MOVEMENT 開催

玉音放送、そして本イベントへの想い

玉音放送に対する想い

一般に「玉音放送」と呼ばれる、1945年8月15日正午に、日本全国で一斉に放送された昭和天皇の肉声による「終戦の詔書」の内容は、現代の私たちに多くの示唆を与えてくれます。中でも私たちが感銘を受けるのは、大規模な空襲や原子爆弾、そして海外戦地での大敗などによって国土も国民生活も甚大な被害を受け、さらに敗戦によって国民が将来への不安に押しつぶされそうな心境の中、当時の国家の最高権威である天皇陛下が直々に、「これから私たちはとても厳しい苦難の道を歩まなければならないが、全員で一致団結して、国の再生と世界からの信用回復と将来の建設のために努力しよう」と、**現実を直視させながらも将来への希望を真正面から語っている**ことです。

翻って現代の私たちは、自分たちの行く末を見定め、降りかかる困難を覚悟しながら、希望のある将来に向かって努力をするということが、できているでしょうか。

玉音放送は、国のトップが国民一人一人に向けて、説明責任を果たし、信頼関係を復活させ、国家の危機に総力で立ち向かうという姿勢を明確に提示した極めて稀有な例です。未来の平和に眼差しを向けている点で、玉音放送は#OUR815 MOVEMENTのコンセプトとステージの重要な位置を占めています。

終戦の詔書の現代語訳と原文はこちら（[huffingtonpost.jp](https://www.huffingtonpost.jp/2017/08/14/emperor-broadcasting-declaration_n_17752858.html)より引用

https://www.huffingtonpost.jp/2017/08/14/emperor-broadcasting-declaration_n_17752858.html）

ONIORNの、#OUR815 MOVEMENTにかける想い

このイベントについて語る時、まず時計の針を2017年の初秋に戻さなければいけません。僕が諸用で東京に行った帰りの新幹線の車内で、突然乗客の持っていた携帯電話が一斉に異音を響かせました。北朝鮮のミサイル発射に対して、警報システム「Jアラート」が作動した瞬間でした。車内は一瞬にして緊張した空気に包まれ、僕も「まさか戦争が始まるのか!？」と思いました。その時僕には、強烈に戦争というものへのリアリティが残りました。

しかし、周りの同世代にそんな話をしても、「戦争なんて起きるはずないよ」と無碍にもされませんでした。おそらくそれが、僕たち世代の標準的な反応でしょう。もしかしたら、戦争や平和について真剣に語ることをすら格好悪いと受け取られてしまうかも知れません。しかし、本当にそれで良いのでしょうか。

戦争にリアリティを感じた僕は、もっと戦争についてみんなに関心を持ってもらいたいと思い、2018年8月15日の正午に、玉音放送をサンプリングした楽曲『- Finalize -』を収録したアルバム『Zanado la vinusante』を発表しました（玉音放送の音源使用は宮内庁に了承を得ています）。そして2019年8月15日には、終戦記念日を僕たち世代が継承していくために、その現代的解釈を提案するイベントとして「#OUR815 MOVEMENT」を開催します。

2017年のNHKの調査では、18・19歳の14%は終戦記念日がいつなのか知らないそうです。それほどまでに、今若者の中では戦争や平和への無関心が広がっています。しかし、無関心な人にただ単に「関心を持ちなさい」といったところで馬の耳に念仏です。ならば、音楽を通して終戦記念日に、815に関心を集められないか。そんな野心的な取り組みですので、ぜひ多くの方のご賛同・ご協力を得て、成功させたいと思っています。



ONIORN 近藤達也

